２６　みどりのオーナーからみた国有林

一関営林署　○斉藤　晃
高橋君行

1　はじめに

現在，各方面，各分野において，２１世紀に向けた地球環境規模での環境保全等の会議が開かれ，自然保護が叫ばれる中，とりわけ森林の必要性に対する関心が高くなっていることはご承知のとおりです。

しかし，残念ながら，その声の高まりが必ずしも国有林野事業に対してはプラスとして理解されておらず，むしろ森林の開発，伐採等が正しく理解されないまま，国有林への批判として出てきていると思われます。

こうした世論から，国有林野の将来を展望すれば，決して明るい見通しにあるとは言い切れないのではないかと考えられます。

これらの関心，声の高まりを国有林野事業への理解と協力の方向に向け，緑のオーナー制度のますますの充実を図り，かつ国民の期待に応えて行くため，国民の皆さんが，国有林の現実をどのように理解しているか，何を期待し求めているか等を知ることが第一であろうと考えました。

また，当署においても分収育林「緑のオーナー」を公募し丁度１０年になり，オーナーの数も１６７名になったことから，一つの区切りとして，国有林野事業を最も理解し協力してくれると思われる「緑のオーナー」を通して国有林経営，分収育林制度の充実，あるいは，林業後継者問題などの解決に役立つものはないか，参考になるものを期待し「緑のオーナー友の会」総会などを通しアンケート調査を実施しました。

なお，アンケート調査期間は，平成５年１０月に行った「平成５年度緑のオーナー友の会」の総会及びその後の郵便による調査の結果です。

回答は，１６７人中１１１人となり回収率は６６％でした。

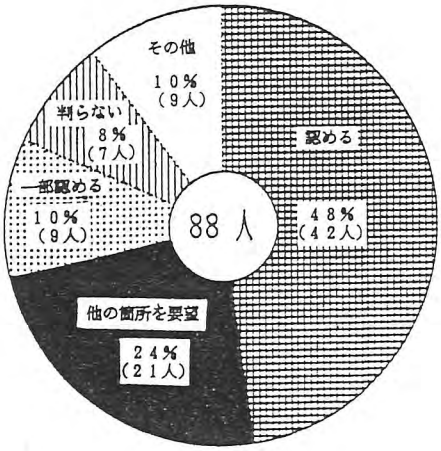
2　調査結果

（1）オーナーからみた分収育林

ア　公共事業等の関係で契約解除の必要があった場合どうしますか。（図－１）

「公共事業なら認める」４２人・４８％，「できるだけ他の箇所を利用するよう要望する」２１人・２４％，「一部なら認める」９人・１０％，「その他」９人・１０％，「判らない」７人・８％になっています。

図－１　　公共事業等の関係で契約解除の必要があった場合はどうしますか

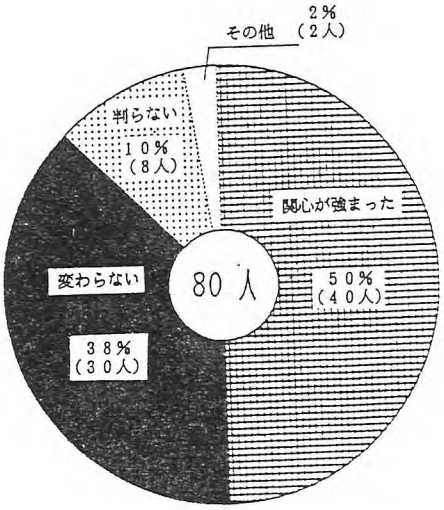


その他の中には，「納得しない」「ケースバイケースだ」「代替地」をという意見もあり，分収育林予定箇所の選定にあたっては，長期的なことで難しいにしても，特に地元自治体に対する要望等，情報の収集に留意していくことが大事なことと思われます。

イ　もしも契約した箇所が病虫害等の被害にあった場合どう考えますか。「営林署が全面的に責任をとるべきだ」５０％，「半分程度は責任をとるべき」３４％，「あきらめる」１０％，「その他」６％で「営林署に対し何らかの責任を求める」と答えた人が７８％もあり，契約書の内容から問題はないにしても，分収の段階等でのさまざまな問題が出るのではないかと危惧されます。

ウ　緑のオーナーになって森林，林業及び営林署についての見方が変わりましたか。（図－２）

図－２　　緑のオーナーになって森林・林業・営林署についての見方が変わりましたか

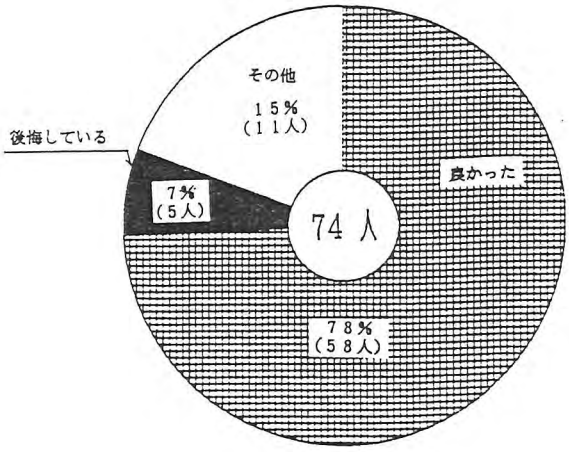


「関心が強まった」４０人・５０％，「変わらない」３０人・３８％，「判らない」8人・１０％，「その他」2人・2％になっています。その他の中には『営林署職員家族と同宿し，いろいろな話をしながら，営林署に親しみを感じるようになった。』という話などもあり，大変嬉しく思う反面，仕事を離れた日常生活においても，もっと人とのかかわりを大事にしなければならないと感じました。

エ　緑のオーナーになって良かったと思いますか。（図－３）

「良かったと思っている」５８人・７８％，「その他」１１人・１５％，「後悔している」5人・７％になっています。

図－３　　オーナーになって良かったと思いますか



良かったと思っている人の意見として，『山について家族等で良く話すようになった。』あるいは，『家族等から好評だ。』が大部分を占めています。

また，分収育林制度については「まだまだ拡大すべきだ」７９％，「やめるべきだ」４％という結果になっています。

（2）オーナーからみた分収育林への期待

ア　分収育林応募の動機は何ですか。（図－４）

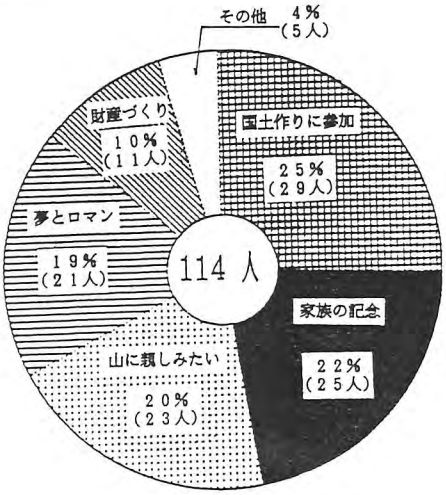
「緑の国土造りに積極的に参加したい」２９人・２５％，「家族の記念等」２５人・２２％，「山に親しみたい」２３人・２０％「夢とロマンのため」２１人・１９％，「財産づくり」１１人・１０％，「その他」5人・４％となっており分収育林は投機の対象よりも自然と林業に理解のある人がオーナーになっていると思われる。

なお，回答者の中に『オーナーになったことで，何本かの自分の木があると思うだけでとても嬉しく豊かな気持ちです。一日一日育っていると思うと，どんな木になって，未来にどのような活躍をするかが楽しみです。』というコメントもありました。

イ　分収育林の募集は何で知りましたか。（図－５）

「新聞記事」４３人・５０％，「折りみ広告」１３人・１５％，「営林署参加のイベントコーナー，人づて」がそれぞれ１１人・１３％，「その他」８人・９％となっ

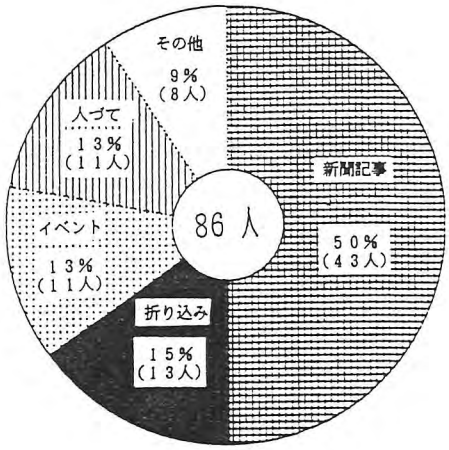
図－４　　分収育林応募の動機は何ですか



ておりマスコミを利用したＰＲ，イベントコーナーでのＰＲが効果的と思われます。

なお，その他の中に「電車内の広告」があり都会におけるＰＲの効果が一関まであったものと思われました。

図－５　　分収育林の募集は何で知りましたか

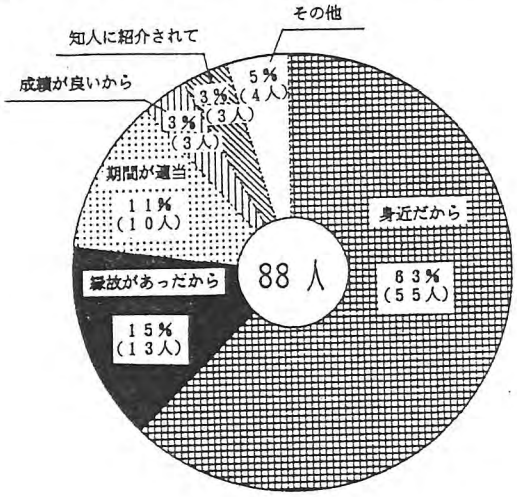


ウ　一関営林署管内を選んだ理由は何ですか。（図－６）

「身近だから」５５人・６３％，「一関に縁故があったから」１３人・１５％，「契約期間が適当だから」１０人・１１％，「成績が良いから」３人・３％，「知人に紹介されて」３人・３％，「その他」４人・５％となっており，その他の中に『一関というにひかれた。』『宮沢賢治の花巻に近いから。』というコメントもありまし

た。

図－6　　一関営林署管内を選んだ理由をお聞かせください



エ　その他の項目

契約期間は２０年，１５年，１０年の順に希望しており回答者の中に『２０１０年まで生きられたらいいですね。』と言うご婦人のコメントもあり楽しみにしている状況が思い浮かばれました。

１口あたりの価格はどう思いますかの問いに対し，「５０万円」７３％，「２５万円」２２％，「その他」５％となっており５０万円の希望が圧倒的でした。

契約手続きについては，「今のままでよい」７５％，「もっと簡単に」２４％となっています。

契約時等での営林署の対応については，「親切だった」６５％，「まあまあだった」３１％，残念ながら「不親切だった」３％となっており反省材料もありました。その他の中に『他局Ｔ営林署のオーナー窓口に行ったが何時も鍵が掛かっていた。』というコメントもありました。

オーナー契約している山をご覧になったことがありますかの問いに対し，「ある」３８％，「ない」３３％，「今後見たい」２４％と関心の深さが伺われました。

また，山を見たという人に，その時どう思いましたかとの問いに対し，「まあまあである」５７％，「期待通り育っている」２４％，「もっと手入れをすべき」１４％となっています。

分収育林の募集があったら今後も応募したいと思いますかの問いに対し，「できれば応募したい」５０％，「是非応募したい」７％となっており今後についても期待が持てます。

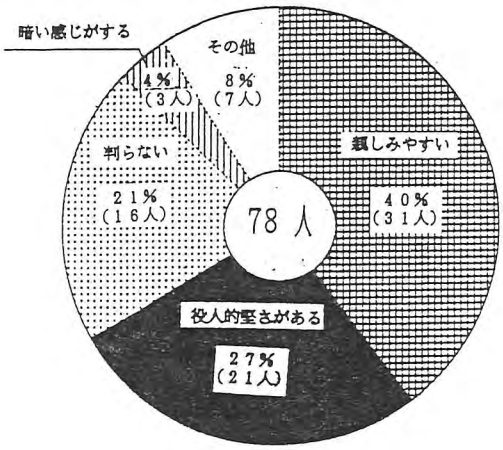
しかし，応募しないが４２％もいることから，定期的な情報の提供等契約者が安心できる配慮が必要と思われます。

（3）オーナーから見た国有林

ア　あなたがもっている営林署のイメージはどうですか。（図－7）

「親しみやすい」３１人・４０％，「役人的な堅さがある」２１人・２７％，「判らない」１６人・２１％，「暗い感じがする」３人・４％，「明るい」１人・１％，「その他」６人・８％となっています。その他の中に『仕事は地味で大変だ。』『自然を愛し，社会を縁の下から支える。』及び『一般人にはあまり関心のない役所。』というコメントもありました。

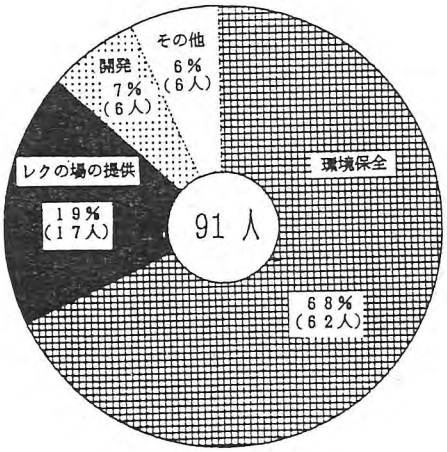
図－7　　あなたがもっている営林署のイメージはどうですか



イ　森林に何を期待しますか。（図－8）

「環境保全」６２人・６８％，「レクリエーションの場の提供」１７人・１９％，「開発」６人・７％，「その他」６人・６％となっています。

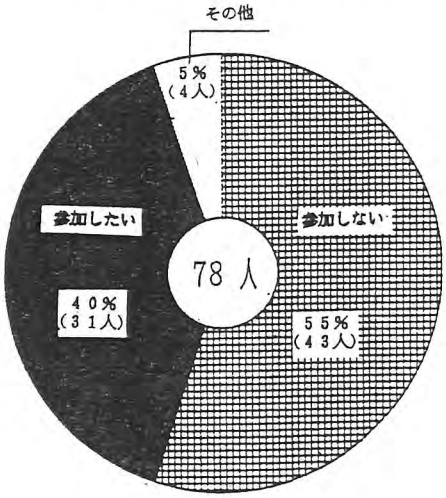
図－8　　森林に何を期待しますか



ウ　自然保護運動についてどう考えますか。（図－９）

「興味があるが参加しない」４３人・５５％，「参加したい」３１人・４０％，「その他」４人・５％となっており，その他の中には『森林の持っている機能を知らずに参加している人が少なくない。』というコメントもありました。

図－９　　自然保護運動についてどう考えますか



エ　その他の項目

現在の国有林をどう思いますかの問いに対し，「もっと国土保全に力を入れるべき」４６％，「もっと植林すべき」２９％，「もっと木材生産に力を入れるべき」１６％，となっています。

国有林野の開発についてはどう考えますかの問いに対し，「自然を守って行くべきだ」５０％，「必要以上にすべきでない」３５％，「過疎化対策のため必要だ」１４％となっています。

営林署の仕事の内容をご存じですかの問いに対し，「少しだけ知っている」４５％，「だいたい知っている」３２％，「知らない」２３％となっており，分収育林オーナーということで８割弱の人が仕事の内容を知っているということでした。

林業後継者はどうすれば育成できると思いますかの問いに対し，「機械化する等労働を軽減する」２７％，「賃金を高くする」２４％，「福利厚生の面を充実する」「もっと仕事をＰＲすべきだ」が各２％となつており，その他の中には『社会的地位を高め，仕事に誇りを持てるように。』『将来的な展望が持てるようにする。』というコメントもありました。

あなたは，あなたの子供さんを林業の後継者として考えますかの問いに対し，「考えていない」６８％，「条件しだいで考えてもよい」２１％，「考えてもよい」３％，「その他」８％となっています。

オ　その他の意見としては『木材価格の低迷は年々その厳しさを増している。しかし，本来林業は自然保護や環境保全と目的を共有するものであり，林業の衰退はすなわち山林の荒廃につながるものである。そのため森林，林業の重要性をＰＲし，木材価格を回復するとともにその施業方法についても研究を行い，その成果を一般にも利用できるようにする等地域の林業にもっと近づき，林業全体をリードするような施策を要望したい。』との意見もありました。

3　とりまとめ

以上のアンケート調査の結果及び意見等から「オーナーの人達」が望んでいる国有林の今後のあり方，及び分収育林制度に加入した結果，山，森林，林業に対する理解と話題が広がったという意見が多数をしめたことに対し，担当者として素直に喜ぶとともに今後も少しでも理解してくれる人達が多くなるように努力して行きたいと思います。